
NPO法日本海洋深層水協会メールマガジン 第72号 (2014年7月30日)

NPO法人日本海洋深層水協会 メールマガ編集チーム

当協会では、海洋深層水利用の最新動向や、各地のイベント、製品開発などの話題を、会員および一般の皆様へ、より積極的にお知らせするために、メールマガジンを発行しています。どなたでもご利用いただけますので、配信をご希望の方は、当協会HPの“メールマガジンの申込み” http://www.npojadowa.net/DWScript/DWInfo_MailMgzn.htm からお申し込みください。

なお、昨年10月から非会員の方には3か月に1回の配信となっています。

会員向けには、同時に海洋深層水関連ニュースも配信しています。

読者の皆様で、メルマガやHPを通じて情報や話題を提供したいと思われる方は、メールで npojadowa@npojadowa.net まで、ご連絡ください。

<協会制作記事> 「海の日」のトリビア

「海の日」のトリビア

今年の「海の日」は7月21日でしたが、皆さんはどのようにお過ごしでしたでしょうか？ 筆者は、暇にまかせてインターネットで「海の日」を検索してみました。そこから派生して、いろいろ面白いトリビアを見つけました。

今回のメルマガでは、筆者が見つけた「海の日」のトリビアを紹介します。

トリビアその1 「海の日」

「海の日」は、平成8年に「海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う日」として7月20日を祝日とすることで制定されました。その後、平成15年からは連休が無い月だった7月の第三月曜日となり、三連休化されています。祝日となる前は「海の記念日」という記念日で、1876年（明治9年）に明治天皇が東北地方巡幸の際、それまでの軍艦ではなく灯台巡視の汽船「明治丸」によって航海し、7月20日に横浜港に帰着したことにちなみ、1941年（昭和16年）に制定されたものです。なお、海のない内陸県の奈良県では、海の日と同じ7月の第3月曜日を「奈良県山の日・川の日」とすることを条例で定めているとのことです。

トリビアその2 「明治丸」

明治丸は明治7年（1874）にイギリスで灯台巡視船として建造された日本最古の二本マストの帆付汽船です。歴史的には、明治8年に小笠原諸島の領有権問題が生じた際に、日本政府の調査団を乗せ英国船より早く小笠原に到達したことにより小笠原諸島領有の基礎を固める役割を果たしました。また、明治天皇が東北巡幸の際に乗船したり、琉球王国、最後の国王・尚泰が「琉球処分」の際、上京の為に乗船した船としても知られています。

その後、明治 29 年に東京商船学校（現東京海洋大学）に譲渡され練習船として昭和 20 年まで使用され、現在は、国の重要文化財として東京海洋大学越中島キャンパスに保存されています。平成 21 年までは一般公開されていましたが、現在は、老朽化に伴う修繕工事のため公開は休止されており、平成 27 年 3 月の完工を待つて再開される予定です。

なお、明治丸の修復工事費用と今後の保守費用の寄付が平成 21 年から募集されてきましたが、現在は目標の半額程度で苦戦をしており、平成 27 年 1 月まで受け付けが継続されているとのことですので、皆さんご協力を・・・。



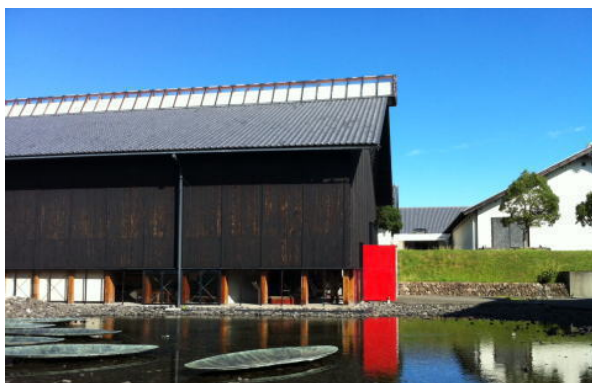
トリアその3 「海洋立国推進功労者表彰」

海の日と海の月間には全国各地で様々な行事が開催されますが、その中に「海洋立国推進功労者表彰」というのがありました。今年は、第3回に当たるようで「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野の受賞者リストに、石原義剛(よしかた) 72 才、海の博物館館長という記載があり、以下の受賞理由の紹介がありました。

【海洋に関する文化財の収蔵・展示】

三重県鳥羽市にある「海の博物館」を昭和 46 年から二代にわたり私財を投じて運営している。当博物館は国指定重要有形民俗文化財 6,897 点を含む約 58,000 点を展示する日本一の規模を誇る博物館として、「海」と「人間」との深い関わりを伝えている。また、海の博物館の展示だけにとどまらず、積極的に講演や海の問題にも力を入れている。

この「海の博物館」が写真のようにちよって面白そうで、ここから中に入って、ついつい長居をしてしまいました。そのうち実際に行ってみようと思います。



鳥羽海の博物館：<http://www.umihaku.com/index2.html> より

ちなみに、この受賞者リストの中に上原春男・元佐賀大学長の名前も見つけました。受賞理由は以下の通りですが、海洋深層水の利用に関する業績が表彰されたことは嬉しい限りです。

【海洋温度差発電に関する研究】

長年にわたり「海洋温度差発電」についての研究に従事し、今後の実用化に資する今までにない高効率なシステムを発明した。また、水の淡水化や水素製造に、この技術を活用する仕組みについても研究を推進した。さらに、国連本部で、海洋温度差発電についての講演を行うなど、長年に渡り研究だけではなく技術普及や啓蒙活動にも従事した。

トリビアその4「海の博物館」

そして、次の興味は、全国に「海の博物館」って他にあるの？

ということで、検索を続けてみました。以下は、その紹介です。

鳥羽海の博物館：<http://www.umihaku.com/index2.html>

千葉県立海の博物館：http://www2.chiba-muse.or.jp/?page_id=60

東海大学海洋科学博物館(静岡)：<http://www.umi.muse-tokai.jp/>

名古屋海洋博物館：<http://www.nagoyaaqua.jp/muse/index.html>

神戸海洋博物館：<http://www.kobe-meriken.or.jp/maritime-museum/>

琴平海洋博物館（海の科学館）香川県：<http://www7.ocn.ne.jp/~umikagak/>

蒲郡市生命(いのち)の海科学館：<http://www.city.gamagori.lg.jp/site/kagakukan/>

国営沖縄記念公園 海洋文化館：<http://oki-park.jp/kaiyohaku/inst/35/36>

皆さんも、このうちのどこかには行ったことがあるのでは？

そういえば、東京には「海の博物館」って無いですね。ちなみに、大阪市立海洋博物館 なにわの海の時空館 は2013年3月に入場者減少のために閉鎖されたそうです。

最後に

海の日と海の月間には全国各地で様々な行事が計画されており、その一覧表がありました。筆者は海洋深層水関連の行事があるか探してみましたが、残念ながら「海洋深層水」と銘打った行事は見当たりませんでした。「海の日」のような機会は、海洋深層水をPRする絶好の機会だと思いますが、各地の海洋深層水取水地では何か行事があったのでしょうか？関係者の方で、情報をお持ちの方は、是非、お知らせください。

(mitsuo)